

## ▶ 標準化の範囲

ここでは、RTコンポーネント・RTミドルウェアの「どの部分を標準化したか？」ということに関して記述します。これも一般に誤解の多いところで、「標準化したのはいいけど、すぐに使えないじゃないか!」「すぐに使えない標準は意味がない!」という声が必要です。ですから、読者のみなさんには、ここで正しく認識しておいていただきたいのです。ここを正しく認識しないことには、後で混乱を来たすことになります。

図1.9にOMGにおける標準化の範囲を示します。PIMというのはPlatform Independent Modelの略、PSMというのは **Platform Specific Model** の略です。これは、ご存知の方には釈迦に説法ですが、OMGが提唱しているMDA (Model Driven Architecture)の2階層です。MDAとは、簡単に言いますと、まず、OSやミドルウェア、開発言語などのプラットフォームに依存しないモデル(PIM)を設計し、PIMを基にプラットフォームに依存するモデル(PSM)に落とし、PSMを基にプログラムを設計する、という流れの開発のことを言います。MDAでは、PIMとPSMでモデルとプラットフォームを切り離すことで、テクノロジーの変化を吸収することを可能にし、モデル間の変換により、モデルと実装の

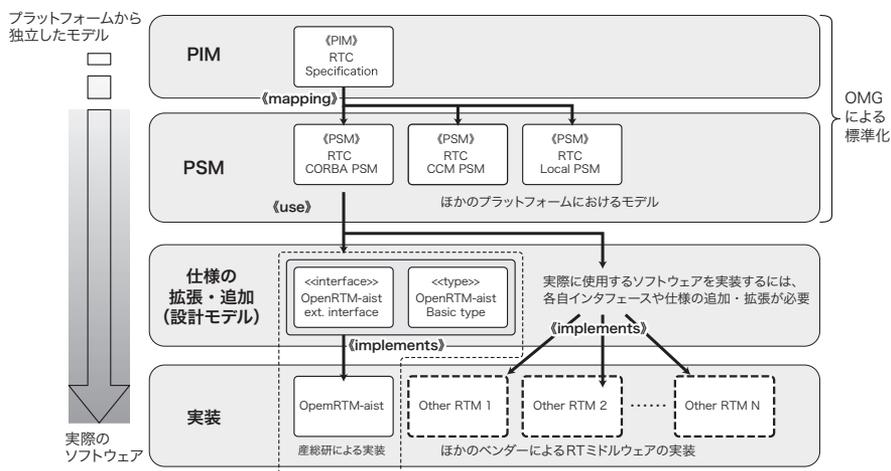


図1.9：OMGにおける標準化の範囲